

2024 年度 第 1 回行政改革推進委員会 会議録（要旨）

【日時】 2024 年 7 月 29 日（月） 13:30～16:30

【場所】 須坂市役所本庁舎 3 階 305 会議室

【出席者】 別紙参照

【次第】 1 開会

2 市長あいさつ

3 議事

(1) 行財政改革プラン 2025 について

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

(3) 地方創生関連交付金事業の効果検証について

4 その他

5 閉会

【議事】

(1) 行財政改革プラン 2025 について

資料説明：行政改革推進係長

- ・行財政改革プランの概要、おもな行動計画の説明

質疑応答

<委員>

- ・予算の枠配分制度の話があったが、本当にやりたい事業があった時に予算オーバーしてしまった場合はどのような形でクリアするのか？

<総務部長>

- ・配分を超えてもどうしてもやりたい部分については、各部局からの強い思いや実施の必要性を財政当局においてある程度加味することを考えている。そのための予算を財政当局が確保する予定。

<委員>

- ・枠配分を実施するとしたら、財政当局は各部門がやりたいことをどうやって把握するのか？

<総務部長>

- ・事務事業評価や政策評価によって各部門が拡大・縮小の優先度をつけてもらう制度としているので、優先度の裁量権は各部の方がある程度強めに持っているものと考えている。

<委員>

- ①ふるさと納税の 6 億円のプラスをどう使用していくのか？
- ②目標を下回った事業は 0 円と記載してあるが、費用が余計にかかった場合はマイナスにはならないのか？
- ③小中学校に対する Giga スクールの施策が数年前にあったが、今後 ICT を活用した具体的な方向性があれば教えていただきたい。

<総務部長>

- ①目的が限られている部分もあるが、ふるさと納税が恒久的な制度であり続ける保証はないため、経常的に行っている事業への充当だけでなく、基金へ回したりもしている。
- ②予算額ではマイナスかもしれないが、この資料では工夫してどれだけの効果額があったかということを示してるので、マイナスという考えはない。

<教育次長>

- ③文部科学省の方で1人1台端末の利活用はさらに進めていく方針なので、ICTを活用した授業をさらに推進していきたいと考えている。

<三木市長>

- ①ふるさと納税については、財政状況厳しいため、事業への充当と基金を積み立てている。基金は財政状況がさらに厳しくなった時のために用意している。
- ②努力して削減できた結果が0円だったということとなる。
- ③ICTは文部科学省が今後も継続して予算措置してくれるかどうかを心配しているので、そこは文部科学省に要望をしている。

<委員>

- ・公共施設の老朽化について、あまり使われていない施設や道路はやめていかないといけないと思う。難しい課題ではあるが、しっかり取り組んでいただきたい。

<三木市長>

- ・将来の世代になったらどうなるのかという観点を持っている必要があると思う。そのような意識を市民の大勢の皆さんに持っていただくことが大事だと思っている。

<委員>

- ・学校の統廃合がされた場合、どのように利活用することを考えているのかをお聞きしたい。

<教育次長>

- ・空いた施設をどうしていくかまでは今のところ論議が進んでいないが、学校が統廃合することになればどうしていくかは当然検討していく。

<三木市長>

- ・須坂園芸高校と須坂商業高校が統廃合された際は、そこに通う子どもたちの目線で実施することに重きを置いていた。何のために廃止するのかを考えることが大事だと思っている。

<委員>

- ・須坂園芸高校と須坂商業高校が統廃合された後、商業高校の方が一部空いてしまっている。効率的な利用ができないかと考えているが。

<三木市長>

- ・実は団体等が利用している。

三木市長コメント

- ・皆さんから先を見据えたコメントをいただけてありがたい。ざっくばらんにご意見をいただきたい。

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

概要説明：政策推進課長

- ・重点戦略①「稼ぐ地域を作るとともに、安心して働けるようにする」

説明：産業振興部長

- ・重点戦略②「須坂市への新しい人の流れを作る」

説明：総務部長

- ・重点戦略③「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

説明：教育次長

- ・重点戦略④「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」

説明：まちづくり推進部長

質疑応答

<委員>

- ・重点戦略③について、プロセス指標によると不登校児が増えている現状があり、次代を担う人材が育っているのか不安を感じる。なぜ不登校児が増えているのか。また、ICTを進める一方で、先生方の事務量が増えて疲弊してしまっている現状がある。このあたりの現状をもう少し具体的にお聞かせいただき、今後の施策についても教えていただきたい。

<教育次長>

- ・不登校児については年々増加しており、一人にひとりへの対応が必要となっているため、担任・ソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等多くの方が関わっている。増加の原因としては詳しくわかっていないが、全国的にも増加傾向にあるため、その分析も参考にしながら原因を分析していきたい。
- ・先生方のストレス度が高まってきている点は、スクールサポートスタッフ、その他スタッフ等の配置、養護教諭支援員の配置や、校務支援システムの導入による事務軽減を進めている。事務分業化等も進めていく必要があると考える。

<委員>

- ・不登校だった子どもが、指導によりうまくいった事例等は集めているか。

<教育次長>

- ・事例を共有しながら進めている。

<委員>

- ・一人の不登校児に大勢がかかわるのが良いのかどうかは検証していただきたい。

<三木市長>

- ・不登校児が増えていることについては、しっかり対応をしていかないといけない。また、教職員のストレスについては、原因分析をしないと解決につながらない。
- ・（重点戦略③について）子育てならば子育てに特化した指標に絞るべきだと感じた。

<委員>

- ・重点政策②について、情報発信の現実と充実化策についてお聞かせいただきたい。

<総務部長>

- ・寄附のポータルサイトを通じて、寄附者への丁寧な対応、寄附者が興味のある須坂市の情報の発信な

ど、ふるさと納税から応援団を増やし、いずれは移住していただくところまで進めていきたいと考えている。

<委員>

- ・不登校児に関連して、学校で定期診断を受けられない場合自己負担となってしまうと聞いたがそうなのか。

<教育次長>

- ・かかりつけ医があれば市外でも受けられ、それは無料としている。

<委員>

- ・子育て支援センターを利用して、受付対応の方が親切で、子どもだけでなく大人にも声かけをしてくれて温かみを感じた。今後もbotaをより良く変化させていてもらいたい。

<委員>

- ・重点戦略④について
 - ①イオンができることによって、渋滞により小中学生の安全の確保が懸念される。
 - ②村山から屋島橋にかけてのバスの本数が少ないが、公共機関によって市内をうまくつなげて観光客等を誘致できないか。
- ・子育て支援について
安心して結婚・子育てできる環境ができるよう、民間と連携等様々な取組をやってほしい。

<まちづくり推進部長>

- ・重点施策④について
 - ①安全面では井上小学校付近の道路について、地元の方と協議しながら車道と歩道を分離するような形にしたいと検討している。また渋滞の面では、登校時間の平日の朝夕とイオンモール利用のピーク時間は被らないものの、ソフト面を含めて対策を考えていきたい。イオンモールの駐車場は建物の周りに周回道路を設置する等の、混雑が軽減されるように対策もされとのこと。
 - ②公共交通については、須坂市から屋島方面へ向かう既存のバスの本数を増やせるように、長野電鉄と協議中。

<教育次長>

- ・児童センターや子育て支援センターの連携など、対応の向上を目指しているところであり、安心して子育てできるよう施策を考えていきたい。

<三木市長>

- ・地域公民館での居場所作りが大切だと思う。
- ・結婚支援については、仰る通り民間に協力してもらうのが良い。

<委員>

- ・必ずしも平等ではなく、本当に困っている人に対する施策を講じていくべきだと考えるが、どのように考えているか。
- ・3歳未満の子を預かる施策は現状どうなっているか。

<教育次長>

- ・下の子を出産するための育児休暇取得による保育園退園のルールについては解消をし、保育園入所の就労時間上限も引き下げる等の改正をしているが、待機児童はいつ出てもおかしくない状況になってきている。

<委員>

- ・イオンモールが完成したら市外からも人が来るだろうが、市外の保育施設に預けてからイオンモールに来ることがないように対策を講じてあげられた方がよいのではないかと思います。

<三木市長>

- ・効果的な税金の使い方は非常に大事だと考えている。
- ・保育士の確保と保育所の面積が課題となっている。

<委員>

- ・重点戦略④に関連して、先日家族がけがをして救急車を呼ぶかどうか迷った時、須坂市のホームページを閲覧しても詳しくわからず、他自治体のホームページを参照した。救急車を呼ぶか判断迷った時にどうすれば良いかの情報をホームページ上等で情報があると良いと感じた。

<消防長>

- ・#7119の番号で、救急車を呼ぶかどうか悩む際に電話してもらえると時間外等でも対応してもらえるので、ご利用をいただきたい。

<三木市長>

- ・須坂市公式 line にも、情報掲載したい。

<委員>

- ・市民向けのチャットボットの利用等、AI 活用については今後どう進める予定か。

<総務部長>

- ・AI 活用については研究段階であり、来年 DX を含めた計画の更新もあるため、どう進めていくかは今後検討していきたい。

<委員>

- ・AI については現在、ものすごい速度で変化をしていっているため、早めに対応するのがよいと思われる。

三木市長コメント

- ・いただいたご意見については速やかに対応していきたい。

(3) 地方創生関連交付金制度について 概要説明：政策推進課長

(1) 子育て・就労総合支援拠点整備事業

説明：教育次長

(2) 子育ても働きがいも！子育て・就労支援の総合応援プロジェクト事業

説明：教育次長

(3) 恋人の聖地広域市町村連携によるデジタル・シティプロモーション事業

説明：政策推進課長

(4) 恋人の聖地広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ事業

説明：政策推進課長

質疑応答

<委員>

- ・恋人の聖地について、行って終わらせるのではなく、また来る価値があると思わせられないと次につながらないかと思う。

<政策推進課長>

- ・事業については須坂市全体の魅力を発信するものとしてやっているが、恋人の聖地の磨き上げについては検討していく。

<委員>

- ・恋人の聖地について、事業費として約2億円が計上されているが、これは須坂市のみの金額なのか。

<政策推進課長>

- ・市のみの金額。国の交付金で1/2が補助される。

<委員>

- ・交付金が切れた場合も収益が見込めそうなのか。

<総務部長>

- ・交付金がなくなった後にもつながるように動いているところである。

<三木市長>

- ・全事業を継続することはできないと思うが、市民の方や事業所が継続してやっていける仕組みづくりが必要と考えている。

<委員>

- ・多くの若い人たちが「聖地巡礼」として各地に出かけているが、恋人の聖地についても、ちょっとしたきっかけで訪問する人を増やすことができると思うが。

<三木市長>

- ・鎧塚俊彦さんのような須坂をPRしていける人を見つけてやっていく必要がある。
- ・恋人の聖地は写真撮影やイベント等がメインとなるが、付加価値をつけるアイディアを出しながらやっていきたいと思う。

三木市長コメント

- ・恋人の聖地については、国の交付金等活用しながらしっかり取り組んでいきたい。